

「樹氷復活県民会議」 自然再生全体構想の骨子案について

1 経緯

- 令和5年3月13日「樹氷復活県民会議」設立した。
- 令和7年3月14日「樹氷復活県民会議」を「自然再生推進法」に基づく「**自然再生協議会**」に位置付けた。
- 自然再生協議会は、長期的な観点から自然再生の全体的な方向性を示す「**自然再生全体構想**」を策定する。
- 令和7年度は自然再生協議会ワーキングチーム会議を4回開催し、自然再生全体構想の骨子案を作成した。

【自然再生全体構想の内容】

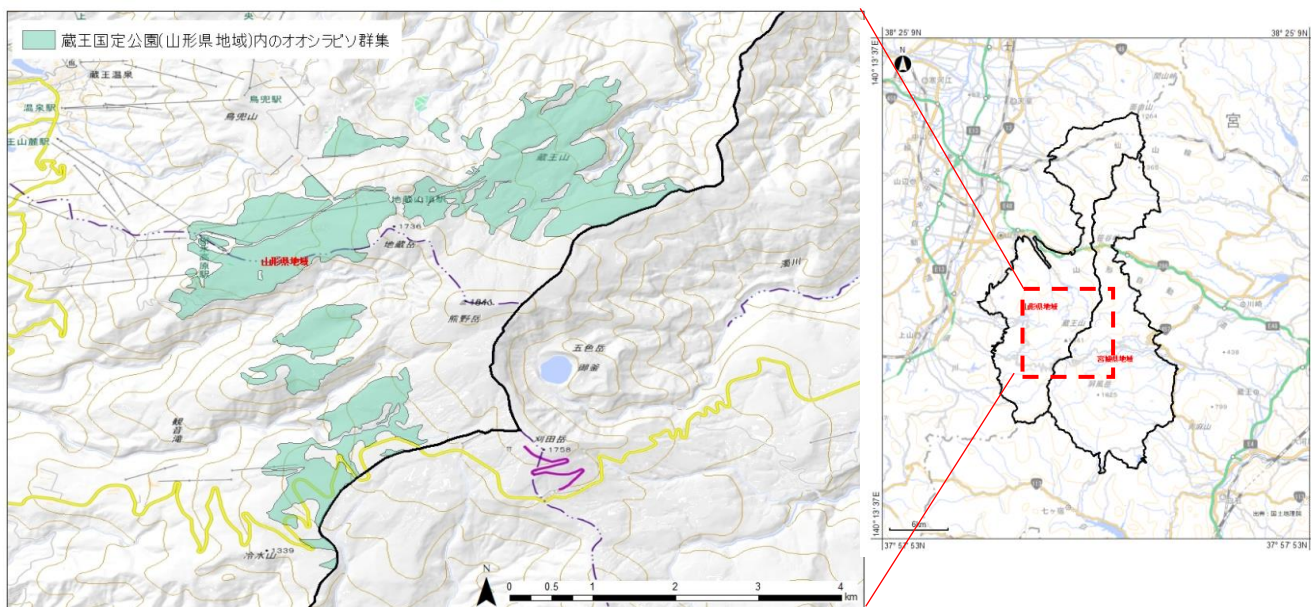
- ① 自然再生の対象となる区域
- ② 自然再生の目標
- ③ 自然再生協議会に参加する者の名称又は氏名とその役割分担
- ④ その他自然再生の推進に必要な事項

2 自然再生全体構想の骨子案

（１）自然再生の対象となる区域

「蔵王国定公園(山形県地域)におけるオオシラビソ林の分布域」

※「令和4年度蔵王地域におけるアオモリトドマツの枯損等現況調査事業」（東北森林管理局）においては、山形県側には約691haのアオモリトドマツ（オオシラビソ）が分布していると報告されている。



蔵王国定公園（山形県地域）における
オオシラビソ林の分布域 のイメージ

※オオシラビソ群集は環境省植生図shpより作成
背景図は国土地理院標準地図

蔵王国定公園

※環境アセスメントデータベース（EADAS）より作成
背景図は国土地理院単色地図

（２）自然再生の目標・基本方針・目標達成のための取組み

【目標】 世界的にも希少で貴重な自然景観である
「蔵王の樹氷」を形成するオオシラビソ林の再生を目指す

基本方針① 順応的管理によるオオシラビソ林の保全と再生

- 1 事業実施区域のゾーニング
- 2 自生するオオシラビソの保全活動
- 3 オオシラビソの育苗・植栽による再生活動
- 4 モニタリングの実施

基本方針② 蔵王の景観の保護と利用とを両立した持続可能な地域づくり

- 1 自然環境の利用と地域産業の活性化
- 2 地域の多様な主体の参加と連携の推進

基本方針③ 次世代を担う子どもたちに蔵王の自然を継承するための 環境教育・学習の推進

- 1 蔵王の自然環境について学ぶ機会の創出

（３）構成員の役割分担

樹氷復活県民会議の構成員は、自然再生事業実施者である山形県と連携・協力し再生事業を推進していく。個別の役割については、計画策定に合わせて検討する。

3 今後の予定

- 令和8年度中 「**自然再生全体構想**」及び「**自然再生事業実施計画**」の策定
- 令和9年4月～ 規模拡大した再生事業の実施

